（郵信省認可）　（本號六面）　明治二十二年七月廿九日　（定價二錢）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千三百六十五號　月曜日
明治廿二年七月廿九日
舊暦巳丑七月二日（丙午）

日出午前四時四十七分　入午後六時三十四分
月出午後五時三十四分　入午後七時十七分
滿潮午後六時三十四分　干午後十時十七分

（西暦一千八百八十九年）

時事新報

賄賂事件の連累者

東京府會議員大岡育造氏より東西新聞へ係る賄賂事件の公判は對審の中途にして證人の陳述に僞證の廉あり しより意外の連累者を生じ豫審廷に拘留せらるゝものあるに至りたるが元來この訴件の性質へ於て賄賂と云へば既に美あらざる其上に場所柄は人間最醜の遊廓へ係り之が爲めに公廷の問答中、時としては聞くへ忍びざる程の醜猥事あり故に連累者も引手茶屋貸座敷の主人番頭など申さば下等社會の者共のみあらんには餘義なき次第なれども豈に圖らんや世間に名を知られたる紳士も現に其中に在るのみあらず風聞に據れば今後取調の模樣に依りては猶ほ上流社會に少なからざる連累者を見るへ至るやも計る可らずと云ふ事の眞僞は知る可らずと雖も斯くありては事體甚だ妙ならず勿論我輩は法律の區域に立入りて罪の有無を云々するに非ず又一個人の爲めに觀を作すに非ずされども元來斯る醜猥の聲は事實の有無に拘らず都て世の表面に聞ゆるみとなきみを斷る所なるに苟も其事の上流士人に牽連するとありては恰も日本社會の體面を汚すものなれば世の公安に關せざる限りは成る可く事を穏へし醜猥の範圍を廣くせずして其止まる所に止まらんみと我輩の特へ希望する所あり或は取調の模樣へ依りては猶ほ此上に證人を必要とする場合ありとするも一通りの訊問へて相濟ひあらば特に召喚するみとなく、一時の召喚にて必要を辨ず可きならば特に拘留するみとなく、又或は既に拘留したる者へても本人の品位に於て逃走の心配もなくして且審問の實際へ妨なき限りは保釋を許し又は責付へ處する等便宜の手段もある可し法は固より厳重も枉ぐ可らずと雖も其ふれを枉げざるの間に又一方に社會の風儀を察して人事の美を裝ふの工風も肝要なる可ければ其邊は偏に當局者の注意を要する所なり抑も人間社會は種々樣々の關係あるものにして單に一片の理屈のみを以て事を了す可きへあらず若しも社會の一部分へ微瑕の現はれたるものを捕へ強ひて其全體を洗ひ出さんとして片端より細々の吟味を遂ぐるとき は破綻百出して底止する處を知らず人間社會は遂に百鬼夜行の圖と化して止まんのみ、申すも穏らはしき事なから彼の實淫の如きは道德上の罪たるに相違あるくして若しも其朋友親戚にして現に斯る醜行を犯すものあるときは面折廷爭して咎む可きみと勿論ありと雖も是れは斯れ一人一個相對の場合へ於て然る可きのみ社會一般の事は自から異にして一個人の例へ倣ふ可らず例へば漫然たる江湖の人に向ひ誰れは何處に出入したり彼れは云々の不品行を犯したりなどと一々之を摘發して公然世に吹聽す可きや否や斷じて出來ざるとならん若しも強ひて此醜の醜事を公にせんとするときは唯世道を害して益なきのみ即ち一身の德義と社會の德義との區別にして此場合に至りて人々の覺悟は不言不論、ふれを傍觀しながら獨り心へ其醜美を判斷するまでに止まり社會の德風を重んずるが爲めに一個人の不德を默々へ附するみと〳〵知る可し左れば今回の事に於ても醜猥に逢ひ端なく之を公にするが如きありては最も遺憾なるが故に我輩は當局者が前後の思慮へ怠らずして能く社會の美を成すの一事に注意あらん事を希望するものなり

鐵道新報

○大製鐵所創設の計畫　近年我邦に於て諸般の工事頓へ興り諸種の器械、蒸汽機械を外國に仰ぐと年々際限あるべからず殊へ一方には鐵道益々延長するへ從ひ條軌、車輪、機關車及鐵橋材料の如きに至る迄何れも外品を輸入し來て毎年夥しき金額を海外に飛び散らし爲へ我理財上の變動を生ぜんとするの憂あり然るに今内地鐵工の現狀を見渡せば其進歩の遲々たる實に驚くべき有樣あり夫の大坂安治川口は明治維新前後より西洋流の鐵工既に開けたれども殆んど二十餘年間一般の進歩に連れて大に其事業を擴張するに能はざるの憂あり然るに今内日は從前と同一の有樣を呈せるは事實に違はざるが如し爾來五六の造船所を設置し或る部分の鐵工は多少此より見るときは未だ甚だ微々たりと云ふの外なく堅牢精密なる鐵機の製造は愚か之が修繕すら充分なる能はざる次第なりし之を要するに元來日本には產鐵の分量寡く且つ其品質の不良なるが爲め遂に今日迄大に養達進歩するを得ずして止みたる者ならん然れども目下大製鐵所設置の必要は時期既に熟して實業家は頻に之を首唱し來り先年製鐵會社を創設するへ至りたるも未だ之を以て我鐵工の運命を羅ざ且つ大に繁昌ならしむべき程の望みありとせず到底一大資本家が唯國益の一念より一大製鐵所を設け先づ地中の鐵を掘出し次へ之を精錬し之を利用して如何なる鐵材、鐵器も製造し得るへ至らしむるは我工業の基礎を固むる必要なるべし近頃聞く處に據れば三菱社は早くも既へ拔に着目し目下其目論見最中にて社員長谷川芳之助氏は專ら之を擔當し既に其取調に從事し追て着手の運びへ至るべきも總て擴張は漸を以てして遂に一大製鐵所を爲すの計畫なりと其方法順序は迚も一地方の鐵にては不足を感ずべければ廣嶋、中小坂、釜石等に於て充分へ採出の方法を施し之を一纏めにして原料に充て大に我鐵道事業を振起せんとの考あるへし既へ同社員は右決意の趣を或る要路の貴顯へも鮮じ且つ今三菱社が私利を捨て國益の一念より斯る最困難なる事業を起し遂に外國品を例かざるへ至らしむるはおか〳〵容易の事にあらざれども幸に多年の艱難を積んで若し功を奏するみともわらば其時へ於て政府は夫の共同運輸會社を以て三菱の創業と競爭せしめたるが如きみとは斷じて之れなき樣希望へ無ければ三菱は毫も政府の保護を望まず終始獨立獨歩して此事業の成功を期すべしと云ひしよし

○關西地方鐵道の巡視　原口技師は先般山陽、大坂、讃岐、松山諸鐵道を巡視し更に海を渡りて大分縣下別府港へ上陸し鹿鳴越を越えて高田に出で中津へ着したる折節は恰も豐州鐵道敷設の計畫稍萌したる頃にて郡長有志者諸氏は原口技師の旅館に就て種々該鐵道に關し隊述する處あるを聞き夫より小倉を經て博多に出で九州鐵道を巡視して熊本へ滯留中は豐肥鐵道の發起者が訪問して是又種々述へる處ありし由今氏が歸京の後御聞たる巡視の模樣を聞くに關西私設鐵道中諸器械其他一切先づ整頓せるは山陽鐵道へして九州鐵道の如きは久く株主の紛議に由るにや意外へ進歩の遲きを感せしめたり氏が先頃豐後豐前を通行して鐵道敷設の如何を實視したるに大分より豐前行事へ至る間には唯一の處鳴越峠あるのみ其他は總て平坦へして又大河の横流するものなく鐵道を敷設するへは極めて容易なり尤も今日へ於て此線路を延長するの必要あるを知らざれども異日或は此時期到來するとあるあらん若し之を敷設すべきものとせんには豐州鐵道固より無用の計畫にあらず併し同線路の本線は近傍物產の顯著なるものあらず且つ人の往來も多からざるが故に其支線ある行事田川間の線路を起して石炭を輸送し之より生ずる利益を以て本線を補ふみとも甚だ必要なるが如し又熊本にて豐肥鐵道の發起者に應接しては該線路は到底工事の困難にして經濟上の不得策なると且つ假令へ强て之れを敷設せんも會社に利あくして却て九州鐵道會社へ多少の妨害を與ふる者なりと縷々說示する處ありしと又熊本より鹿兒嶋へ至る線路へ近頃鐵道の敷設計畫あれども是は既に九州鐵道會社屋技師獨逸人が屢々巡視したりと云へば遂へ思ひ止りたり同技師の話に據れば肥薩兩國の中間には峻嶮の山重疊して二重三重恰も屏風を立たるの有樣にして迚ても好線路を見出す能はずと云へり云々

○清國通州鐵道　清國皇帝は去月廿九日通州鐵道を敷設すべしとの勅諭を下したりと云ふ

○仙臺一ノ關間の鐵道　同鐵道は全く落成したるを以て停車場の竣工を待ち來月十五日頃開通式を施行する筈なりと

○軍用銃の到着　海軍大學校より最に同校生徒解銃術研究のため歐米諸國へ注文せし軍用銃數十挺は此程到着したりと

○巡査教習所　芝愛宕町三丁目巡査教習所にて現今の授業生は九十九名内四十一名は前期後期合併昨今試驗中にて其成績に依りては後期は勿論前期にても直へ卒業せしむる都合なりと

○長野尋常師範學校生徒の修學旅行　一昨日の電報欄へ見ゆるが如く長野尋常師範學校の生徒八十餘名は校長及び職員へ隨ひ修學旅行として出發したる由其の道筋は上州白根山に登り草津を經て前橋桐生等に出で下野なる足尾銅山に立ち寄り日光中禪寺にて一日間滯在し歸路は栃木高崎富岡等の各地を過ぎりて來月十五日歸校の筈なりと云ふ

○野州足利織物講習所卒業式　栃木縣下野足利織物講習所は創立以來今度初めて色染生徒十名卒業するに付右卒業證書授與式を來る三十一日執行するよしにて當日は招待に應して農商務省工務局の山本四等技師が臨場し翌八月一日には織物講話會を開くよし

○東京盲啞學校　にては去る二十六日定期試驗を終りしが卒業すべき生徒專科料に啞生盲生各三名、技藝科に啞生一名

○碓氷